

発表③【鶴亀通貨 未来への懸け橋 ～明日への活力へ～】

法人名：株式会社すこやからいふ

事業所名：すこやかデイサービス

サービス種別：通所介護

<はじめに>

すこやかデイサービスは知多半島の中に位置するところにあります。

定員34名で、創・湯・路の3ユニットで構成されています。

創はADL向上、湯は重度の方、路は認知症予防とそれぞれの目的に合わせたユニットで過ごせます。

開所前より利用者にどのような形が満足して過ごして頂けるかを考え、鶴亀通貨システムを取り入れました。

「鶴亀通貨」とは利用者がデイサービス内で仕事をする通貨が報酬として発生、その通貨を利用者が自由に使える共通のツールで全利用者対象です。単位は「亀」です。

自分で出来る、仕事を通し①暮らしの中で活かしていける行動が②喜びや充実感へ結びつき ③得られた充実を更に有効活用し ④自分の力を発揮する積極的な心「想い」をカタチにすることで「生きる力」に繋がると考えました。

「仕事する⇒収入を得る⇒購入する、使う、貯蓄⇒仕事をする」のスパイラルが成り立ちます。

<目的>

鶴亀通貨導入により利用者は何を求めどんなことが楽しく感じているかを理解し、様々な変化を振り返り「生きる力」を考える。

利用者との関わりを学ぶ事ができ、そして“生きる力”が引き出せたと感じたので事例発表させて頂く事とする。尚、本発表の写真については説明と同意の上使用しています。

<事例の紹介>

A氏 72歳 男性 ユニット湯

H17年糖尿病壊死により両側大腿切断

H19年脳幹硬塞後遺症により左麻痺、口腔内左側の麻痺が強く構音障害により会話困難。元気な頃は国鉄職員として40年間一生懸命働かれていた。

<支援の経過>

当サービス利用前は、他デイサービスに6年通われ、他者との関わりを好まれず外の景色を見て過ごす事が多かったとの事。

平成26年5月よりすこやかデイサービスご利用開始。

胃瘻造設者のため入浴はいつも朝一番に入り、入浴後休息をして11:30頃より胃瘻開始。静養室からフロアが見渡せ、フロアで会話している人達が見渡せる場所で胃瘻を行う。

胃瘻中は入眠しないようご本人の大好きな時代劇や喜劇を見て過ごす。

14:00頃起床、利用当初はフロアを目的もなくただ自走していました。

5月

ほとんど話すことはなく無表情の時間が長く胃瘻時間や仕事内容もスタッフの指示で行っていました。この頃は鶴亀通貨の意味も理解できず、自らの意思で動く事なく、仕事をする事もなく何をすることもスタッフの提示に沿う形で過ごされていた。私達スタッフはそれを求めていたのでは無い事を再確認し、A氏の想いや伝えたい事が理解でき信頼関係ができるまで、時間をかけ待つことにしました。

8月

3ヶ月後、当初会話は文字盤使用し、自分の思いを語らなかつたA氏だったが、8月頃より自分の思いを発語する変化が表れ、少しずつ声を出しての会話や指で文字を書き伝えてくれるような変化があらわれた。このころから会話を聞いて笑うようになり、それと同時にそれまで、義歯を入れてデイに来なかつた方が、会話ができるように入れて来るようになりました。仕事する事にも慣れはじめ仕事量も増え、事務仕事をするためご自

宅から虫眼鏡を持参したり胃瘦が終わる時間を気にされたりと、鶴亀通貨を理解し、仕事をして貯まっていく通貨に喜びを感じはじめていきました。

仕事をされた際、仕事に不備があっても「ありがとうございます。すごく助かります。又お願いします」と声をかけるようにしました。

そして9月頃より仕事内容をスタッフが評価し不備のある時は一緒に確認、やり直しを行いました。また、仕事はあちこち移動しなくても何かのついでに出来るように、自分で考え効率のよい仕事回しをされるようになりました。

同時に仕事で鶴亀通貨を手にする、まず自分は飲めないがスタッフに通貨で飲み物をご馳走してくれるようになりました。貯めるだけでなく使うシステムを理解すると、今までスタッフにご馳走するだけの通貨の使用が、徐々に、お孫さんに文房具を購入されたり自分は食べれないが奥さんに手作りパンを購入されるようになり、働く、使う、の循環が少しずつ幅を広げ楽しくなって行ったようです。

また今までは他ユニットに行く事はコミュニケーションが難しいA氏にとっては積極的では無かったが仕事を通して他ユニットへ行かなくては仕事にならない為、行く回数が増えていきました。

11月

文字盤での会話はほとんど無くなり会話は声を出し伝えてくれ、伝わらなくても諦めず何度も声で伝えてくれるようになりました。

笑顔の時間も多く声を出して笑うようになり自ら率先して仕事も行うようになりました。

仕事をする為起床する時間を逆算して胃瘦が終わってから起こして欲しい時間をスタッフに伝えるようになり、8月に比べ他のフロアのスタッフとの会話も多くなりました。

排泄、排便はご利用当初はほぼベッド上での介助でしたが、生活すべてにおいて積極的になり、現在では排泄誘導にてトイレで排泄しています。

この頃からご自宅でも変化が現れ、送って行ったスタッフがご利用中の話を奥様に伝えるとスタッフが帰った後、話しの詳細を一生懸命に奥様に伝えるようになったそうです。

<考察>

A氏は、今までは人と関わる機会を好まず、コミュニケーションレベルは全体的に低く、取りあえずデイに行くが本心だったと思われる。

A氏に仕事を依頼する時は、他のスタッフにも聞こえるように依頼をかける事で、A氏が途中で他スタッフと会話する必要がある時も、発語が伝わりにくくてもスタッフは仕事内容を理解しているためA氏はスムーズに仕事が出来たと思われる。

そしてA氏は利用のたびに、自分のできる事が少しずつ増え、鶴亀通貨を上手に展開する事ができ、充実感や達成感を味わったと考えられる。

<まとめ>

人は誰かに頼られ、感謝されることで喜びへと変わる。

初めは色々な事にチャレンジし、ある一定期間を過ぎると自分の役割を整理する事ができ、自分らしく過ごせている事が、達成感、充実感へと変わる。

また今回A氏を通し鶴亀通貨システムが確立される流れを、スタッフが一緒に体験できたことで今後の課題にもつながりました。

私達スタッフ側の課題としては、しっかり、利用者様の情報を収集し、アセスメントをし定期的に見直す事が重要です。

それにより、利用者様は何を求めどんなことが楽しく感じているかを理解し鶴亀通貨システムを取り組んで『できることを』『当たり前』『やって頂き』『評価する』という4つのことに結びつきます。

それが鶴亀通貨導入の振り返り結果とも言え、「生きる力」明日への活力へと繋がっていくと実感しています。ご清聴有難うございました。